

2050年に向けたアクション

積水ハウスグループは2008年、住まいからのCO₂排出ゼロを目指す「2050年ビジョン」を宣言し、「脱炭素」経営にいち早くかじを切りました。2016年度は、将来のさらなる環境変化に備え、より広範な事業領域で2050年に向けた長期ビジョン「サステナビリティビジョン2050」を策定しました。2017年度は、当社グループの長期的な価値実現に関心を持つステークホルダーと道筋を共有するため、2030年を見据えた中期の取り組みを示しました。そして2019年度はS(社会)において目指す姿を「健康・長寿先進社会」と「ダイバーシティ社会」の二つに分け、目標をより明確化しました。

サステナビリティビジョン2050

目指す姿	2050年のチャレンジ目標
 <h3>脱炭素社会へ先導</h3> <p>地球温暖化による気候変動は私たちの暮らしに目に見える影響を与え始めています。化石燃料への依存を続けることなく、エネルギー問題に制約されず、質の高い安全な暮らしが可能な社会を実現します。</p>	<h3>住まいのライフサイクルにおけるCO₂ゼロ</h3> <p>リーディングカンパニーとして、住宅という製品について、材料購入から生産、販売、居住、解体までのライフサイクル全体において、再生可能エネルギーの利用も含めて、CO₂排出量をゼロにします。</p>
 <h3>人と自然の共生社会へ先導</h3> <p>豊かな自然のネットワークは、生物多様性の保全に寄与し、気候変動を緩和させるなど、私たちの暮らしを支える生態系サービスを守るだけでなく、人々の生活の質を改善し、つながりを強めることに貢献します。このネットワーク機能を最大化し、人と自然の共生社会を実現します。</p>	<h3>事業を通じた生態系ネットワークの最大化</h3> <p>生態系の破壊につながる森林減少をゼロにする(Zero Deforestation)ために「フェアウッド」調達100%を実現します。また、住宅建築、まちづくりにおける緑化を通じて、生態系保全、防災・減災、快適性など、自然が持つグリーンインフラ機能を賢く利用する都市緑化貢献度日本一の企業を目指します。</p>
 <h3>資源循環型社会へ先導</h3> <p>世界人口の増加に伴い、資源やエネルギーの需要が高まる中、すべての人が安定した暮らしを送るため、技術や経済システムの革新によって、天然資源だけに依存しない、リサイクル資源を持続的に活用する循環型社会を実現します。</p>	<h3>住まいのライフサイクルにおけるゼロエMISSIONの深化</h3> <p>住宅を良質な資産として育てるため、住まい方や社会変化に対応する適切なリフォーム・リノベーションを当社グループで提供。これらの過程で発生する廃棄物について、業界に先駆けて達成したゼロエMISSIONを深化させ、業界連携による社会インフラレベルでのゼロエMISSIONを実現します。</p>
 <h3>健康・長寿先進社会へ先導</h3> <p>人間性豊かな住まいと環境を創造する指針のもと、安全・安心・健康な住まいを提供し、グローバルレベルでの地域の課題を解決するとともに、成熟社会・高齢社会の先進国として、誰もが健康で誇り高く生活できる社会の形成を目指します。</p>	<h3>住まいづくりを通じた健康・長寿の実現</h3> <p>安全・安心・快適に生きがいを持って住み続けることができる、豊かな居住環境と地域コミュニティを整備し、良質な社会資産の形成に貢献します。「健康」「つながり」「学び」という無形資産を生み出し、長寿社会に寄与できる住まいづくりを実現します。その過程で、最新技術の開発・活用などにより、当社が提供する住まいでの家庭内事故ゼロを目指します。</p>
 <h3>ダイバーシティ社会へ先導</h3> <p>グローバルで多様な人々が互いに好影響を發揮し合いながら活躍し、イノベーションを実現することにより、持続可能な社会の形成を目指します。</p>	<h3>誰もが自分らしく能力を發揮できる社会の実現</h3> <p>多様な人々が、それぞれの個性を生かした能力を最大限發揮できる機会の提供と環境の整備を推進。イノベーション&コミュニケーションにより、社会に多様な価値を創出します。</p>



実践してきた主な活動	2030年の目標	ESGでの対応
<ul style="list-style-type: none"> ● 「エコ・ファーストの約束」公表(2008年) ● 環境配慮型住宅「グリーンファースト」発売(2009年) ● ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス「グリーンファースト ゼロ」発売(2013年) ● パリ協定遵守宣言(2015年) ● 国際イニシアチブ「RE100」に加盟(2017年) ● TCFDレポート発行(2019年) 	<p>SBT目標の達成</p> <p>住宅のライフサイクルにおけるCO₂排出量ゼロを目指す中、スコープ1、2およびスコープ3(カテゴリ 11:居住)排出量をそれぞれ2013年度比で50%削減、45%削減することを目指します(SBT目標)。また、「RE100」加盟企業として事業活動で消費する電力の50%を再生可能エネルギーで賄います。</p>	<p>E 環境</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 「5本の樹」計画開始(2001年) …累積植栽本数1611万本達成(2019年) ● 「木材調達ガイドライン」制定(2007年) 	<p>生物多様性の主流化をリード</p> <p>地域の生態系に配慮した在来種中心の植栽提案「5本の樹」計画に基づく植栽本数について、年間100万本規模を維持し、都市緑化の一層の拡大を進めるとともに、標準的な積水ハウスの住宅において、持続可能性に配慮した公正な木材「フェアウッド」調達100%を目指します。</p>	<p>E 環境</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● ゼロエミッションプロジェクト始動(2000年) ● 全工場で廃棄物のゼロエミッション達成(2002年) ● 新築施工・アフターメンテナンス・リフォームの各段階で廃棄物のゼロエミッション達成(2005~2007年) ● ビッグデータ活用に対応した次世代システムに移行(2017年) 	<p>循環型事業の制度整備加速</p> <p>建設業界で最初に取得した廃棄物処理法の特例制度である「広域認定制度」の対象範囲を拡張しながらストックビジネスへの対応を充実。同時にIT技術の活用を加速し、クラウドを中心とした廃棄物回収の電子管理システムなどで管理の精度向上と効率的で円滑な運営を進めます。</p>	<p>E 環境</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 日本初の「障がい者モデルハウス」建設(1981年) ● 「生涯住宅」を住まいづくり思想として定義(1989年) ● 「積水ハウス ユニバーサルデザイン」確立(2002年) ● 安全・安心・使いやすさに加え、心地よさまで追求した「スマート ユニバーサルデザイン」提案開始(2010年) ● 空気環境配慮仕様「エアキス」発売(2011年) ● 「幸せ住まい」研究開始(2018年) ● 「プラットフォームハウス構想」発表(2019年) 	<p>社会課題を見据えた新たな価値の創造</p> <p>健康・長寿先進社会に向けて、社会における住宅の役割を継続的に果たすことを目指しています。中でも、構造、インテリア、環境配慮などの有形資産だけでなく「健康」「つながり」「学び」という無形資産に着目し、健康長寿をもたらす住まいづくりを推進することにより、人生100年時代の幸せを提供します。</p>	<p>S 社会</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 「人材サステナビリティ」宣言(2006年) ● 女性管理職候補者研修「積水ハウスウィメンズカレッジ」開講(2014年) ● ダイバーシティ交流会(障がいのある従業員の交流会)開始(2015年) ● 健康経営の方針策定(2018年) ● 「イクメン休業」制度運用開始(2018年) ● 「異性事実婚・同性パートナー人事登録制度」運用開始(2019年) 	<p>ダイバーシティ & インクルージョンによる持続的成長</p> <p>ESGのリーディングカンパニーとして女性、障がい者、高齢者、外国人、LGBTなど、さまざまな個性を生かし、持てる力を最大限に発揮できる経営を実践します。取り組みの成果、課題などを社会に開示することにより、ダイバーシティ経営の普及、促進に寄与します。</p>	<p>S 社会</p>